

# 持続可能な民生委員児童委員活動を目指して

## 飛騨市 神岡地区民生委員児童委員協議会

### はじめに

神岡町は岐阜県の最北端に位置し、春は桜と新緑、夏は清流高原川の鮎釣り、秋は色鮮やかな紅葉、冬は白銀の世界と四季折々の自然を楽しむことが出来る町です。令和6年4月1日現在の人口は7,085人、高齢化率は47.18%と高齢化が進んでいます。

神岡鉱山の跡地を利用した素粒子・宇宙の謎の解明を目指す実験装置「スーパーカミオカンデ」があり、この実験装置での研究成果により小柴昌俊教授、梶田隆章教授の2名がノーベル物理学賞を受賞しました。研究内容や実験装置の詳細は道の駅「スカイドーム神岡」にあるひだ宇宙科学館カミオカラボで紹介されています。

また神岡鉄道の廃線と自転車を組み合わせたアクティビティのレールマウンテン「ガッタングー」も有名で毎年多くの観光客でにぎわっています。

### 民生委員児童委員の取り組み

神岡地区民生委員児童委員協議会は民生委員児童委員30名、主任児童委員2名で日々活動を進めています。

毎年開催される総会および非定期での運営委員会で活動の基本方針を決定し、定例会や研修会により民生委員児童委員の自己研鑽や情報共有に務めています。

日々の活動は毎月事務局が発行している機関紙「つながり」を活用し、各地域の福祉協力委員と連携した一人暮らし高齢者の定期訪問および状況確認を行い、行政機関との連携を図っています。特に機関紙「つながり」は新任民生委員児童委員に好評で、スムーズな訪問活動の支援サポートに役立っています。



▲ひとり暮らし高齢者等見守り新聞「つながり」

また緊急通報装置の設置推進や非常時の救護活動に役立つ救急カプセルの設置推進、地元町内会や公民館活動への参加による情報提供や情報収集、シニアクラブ行事の支援サポートも重要な活動になっています。

最近VR（仮想現実）を活用した認知症体験研修会を実施し、

認知症の症状や感覚をVRで体験することで状況の理解や対応に深く寄与することを目標としています。

さらに歳末助け合い街頭募金、不要カレンダー回収と社会福祉施設への寄付など地道な活動も継続しています。

神岡地区民生委員児童委員協議会独自の活動として、3年に1回『神岡の民協』という機関誌を発行しています。一任期中の出来事の記録や委員の足で集めた諸調査



▲認知症高齢者VR体験



▲神岡の民協

### 課題と対応策

課題は他の地方自治体と同じく、人口減少と高齢化が大きく進んでいる状況にあり、その結果一人暮らしの高齢者も増加しています。限られた民生委員児童委員でそのような状況を正確に把握し、行政とのコミュニケーションを迅速に図って行くことが求められています。ただこのような情報の把握は個人情報保護の観点から困難な面もあり、行政や地元地域との密接な情報共有が非常に重要になっています。

また新任民生委員児童委員不足も大きな課題となっています。地元地域で民生委員児童委員活動が可能な人材の把握ときめ細かな情報提供などを、日頃から継続して行くことがポイントとなっています。

### 終わりに

これからも行政や社会福祉協議会、地元地域との連携を深めながら、日々の見守りを通じて、地域住民に寄り添った支援サポートを目指していきたいと思っております。

